

『車椅子から椅子への移行』

回心堂第二病院 D病棟

はじめに

近年の、高齢化社会ではますます寝たきりの人々が増えてきている。最近では寝たきりにさせない取り組みが多く行われている。その1つに車椅子移乗があるが、車椅子はあくまでも移動手段の1つであり椅子として座るものではない

今回、車椅子から椅子へ移行する事によって、患者様がどのように変化したかを観察し検討した。

研究対象及び研究方法 -

対象：立位のとれる患者様7名

期間：7月～9月

観察：食事量と食べやすさの有無

車椅子と椅子それぞれの姿勢の変化

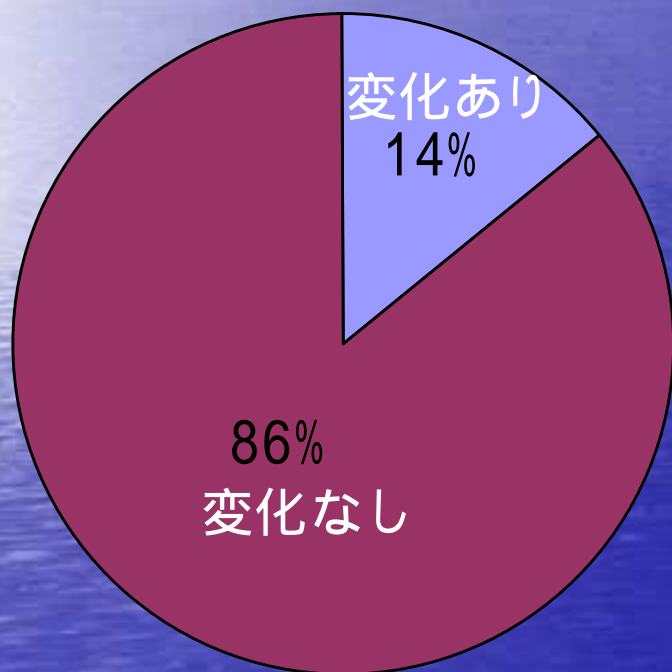
ADL変化

精神面の変化

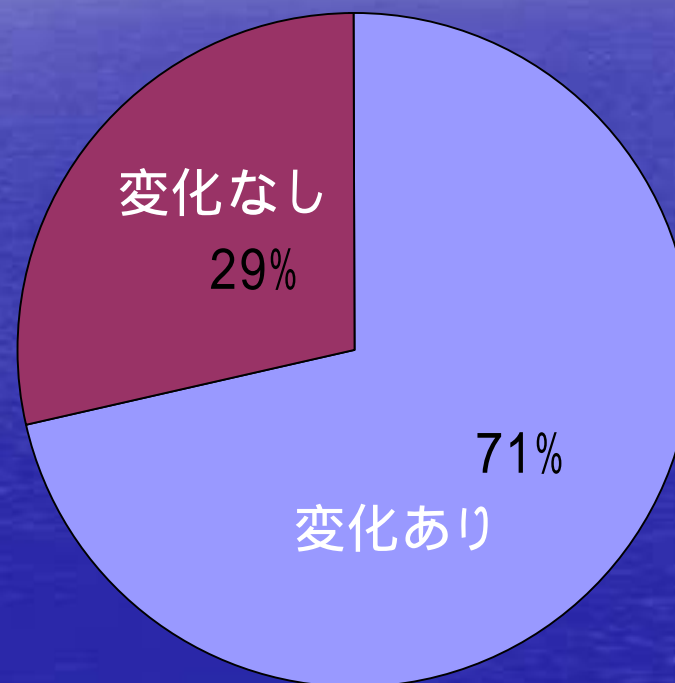
スタッフ10名が1時間車椅子に乗り体験。

結果

1.食事量変化について

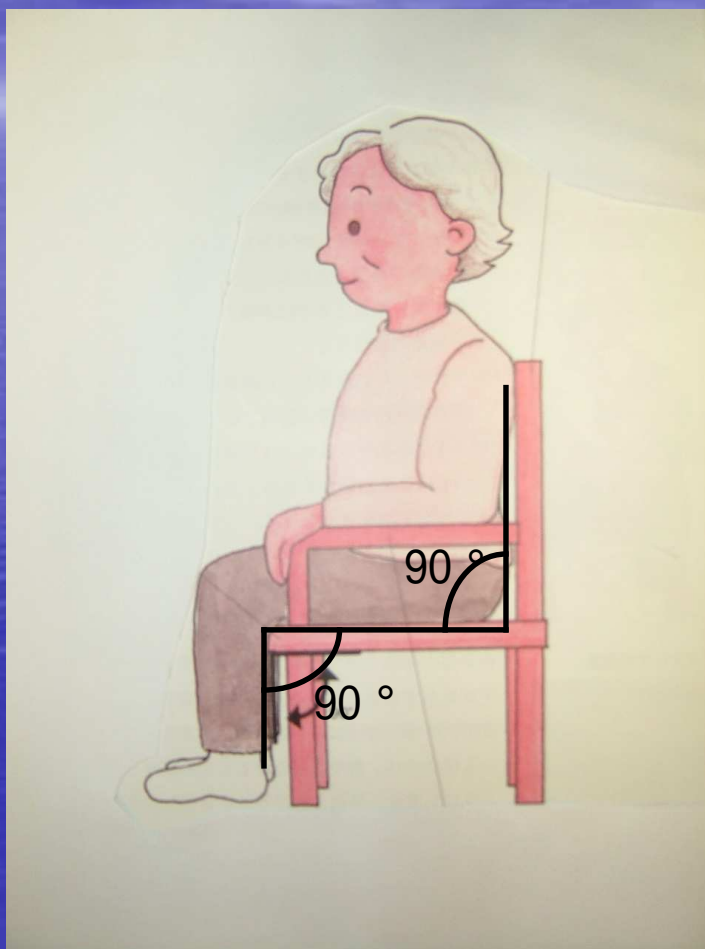


2.ADLについて



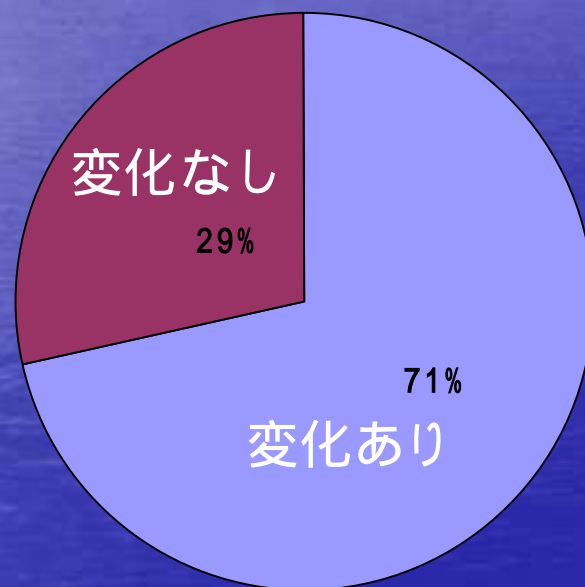
結果 -





結果

4.精神的变化について



結果 -

座り心地良い



違和感



腰から臀部にかけて圧迫感

仙骨部 疼痛

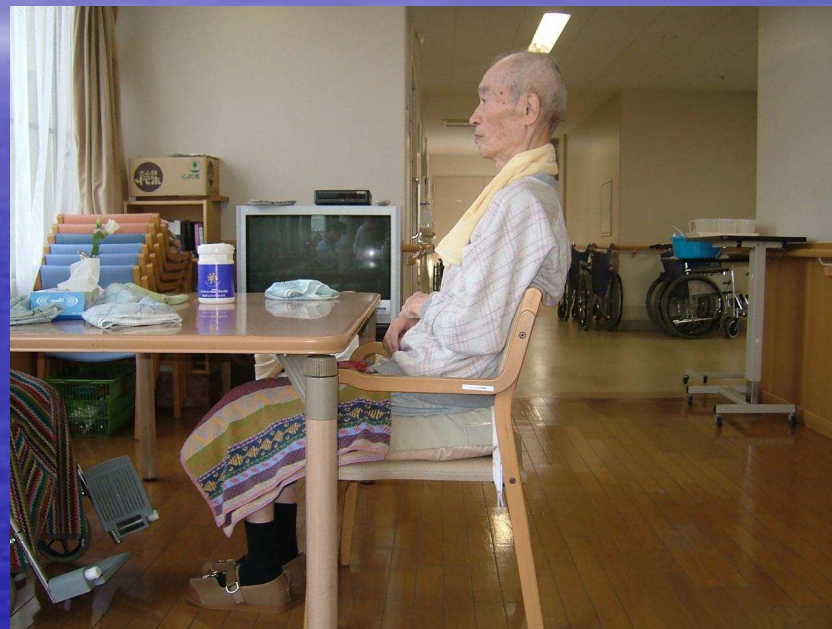


大腿部下 ムレ

体動困難

－ 考 察 －

- 車椅子から椅子への移行時にぶらついたり椅子に足をぶついたりするリスク。
- 急に椅子から立ち上がろうとしたりする危険。
- 患者様の筋力がアップしてきているためスタッフの介助の負担の軽減。
- 圧が分散され褥瘡になりにくくなっている。



— 終わりに —

- 患者様の状態を現状維持させることも大切であるが、日常生活の中に何気なくリハビリなどを取り入れることで患者様になるべく負担をかけずレベルアップ出来ることが良い経験になった。

自分や自分の家族を安心して預けられる病院を目指します！！

